

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	MS	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	4	派遣国	カナダ
派遣大学	モントリオール大学		
期 間	2024 年 8 月 26 日～ 2025 年 4 月 30 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約 (5 万) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (10) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	3 万円	
学用品購入費	5 千円	教科書
交通費	5 千円	
交際費	2 万円	外食、お出かけ
その他	1 万円	日用品、洋服
合計	7 万円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

大学周辺、寮周辺は非常に治安が良く、夜に出歩いても問題ありませんでした。しかしダウンタウンはホームレスが多く、気を付けて外出する必要があると思います。また Laval という地域はモントリオールの郊外ですが、現地の子が危険だから行かない方が良くと言っていました。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 その他（ ）		
加入期間	（ 10 ）ヶ月間	保険料	（ 103,930 ）円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	健康保険		
加入期間	（ 8 ）ヶ月間	保険料	（ 7万 ）円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町（ モントリオール ） モントリオールはカナダ・ケベック州に位置する都市で、公用語としてフランス語と英語の両方が使用されています。街の中心部にはモンロワイヤルと呼ばれる大きな丘があり、頂上からはモントリオール市街を一望することができます。ハイキングコースは比較的なだらかで、軽装でも気軽に訪れることができます。モンロワイヤルの中には公園が整備されており、四季を通じてさまざまな楽しみ方ができます。秋には紅葉、冬にはスケートを楽しむことが可能です。ピクニックをする人々の姿も多く見られました。 モントリオールは学術都市としても知られており、モントリオール大学のほか、マギル大学やコンコルディア大学といった他大学との交流も盛んに行われています。学生が多く、多文化的で活気のある雰囲気が印象的でした。 生活面では、アジア系のスーパーマーケットも複数あり、日常的な食材の調達には特に困ることはありませんでした。ただし、冬季には大雪により買い物が困難になる場合もあるため、本格的な寒さが訪れる前に保存のきく食品を備えておくことをおすすめします。 モントリオールの冬は非常に厳しく、気温が－20 度に達する日も珍しくありません。防寒対策として、日本からは超極暖などの高機能インナーや厚手の靴下を持参すると良いと思います。また、雪が膝の高さまで積もることもあるため、防水性の高いブーツは必須です。価格はやや高くなりますが、現地では機能性に優れた冬用の靴やコートが手に入るため、必要に応じて現地調達を検討するのも良いと思います。
--

【学業編】

1. 大学情報

大学	モントリオール大学	所在地	カナダ モントリオール
最寄空港	モントリオールトルドー国際空港	空港からの距離	
空港⇄大学	(バス、地下鉄) *移動手段		
学生数	約 6 万 7 千人	留学生数	約 1 万人
学部	Faculty of Arts and Science Faculty of Environmental Design Faculty of Music School of Optometry Faculty of Nursing School of Public Health Faculty of Veterinary Medicine Faculty of Dentistry Faculty of Medicine Faculty of Education *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	Faculty of Arts and Science/Anthropology *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		Anthropologie urbain			
午後	Homme/femme : constructions culturelles		Anthropologie politique	Globalisation, société, culture	

② (1)月～(4)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		Rédaction académique et professionnelle			
午後	Sociologie de la santé		Quebec Writing in English	Les mondes celtes: langues et civilisations	

3. 履修内容

科目	Homme/femme : constructions culturelles		
履修期間	9 月～12 月	単位数	3
授業内容／形態	世界の女性と男性。女性、男性、その他の文化。性自認の捏造;コミュニティとの関係の心理的・性的側面。ジェンダーのイデオロギーと実践。現代のおよび歴史的な例を挙げながら講義が進んでいく。		
成績	C		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Anthropologie urbain		
履修期間	9 月～12 月	単位数	3
授業内容／形態	都市の中で起こる問題に対し人類学的にアプローチする。都市間の変化(農村/都市)、南北移動、現代都市の多様性など。毎授業ディスカッションあり。		
成績	A-		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Anthropologie politique		
履修期間	9 月～12 月	単位数	3
授業内容／形態	政治人類学の基本的な概念を学ぶ。類型学などといった領域にも触れ、社会の構造や機能について学ぶ。社会の過去のフィールドワークや人類学者や考古学者の考えや社会の捉え方について。		
成績	F		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Globalisation, société, culture		
履修期間	9 月～12 月	単位数	3
授業内容／形態	グローバリゼーションが社会、文化、アイデンティティに及ぼす影響の研究。文化と時間、文化と空間の関係。社会的および文化的多元主義。考古学の文献をもとに講義を進めていく。		
成績	F		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Sociologie de la santé		
履修期間	1 月～4 月	単位数	3
授業内容／形態	健康と幸福の社会学における問題や議論のレビュー。特にケベック州の状況に焦点を当てる。疫学的、専門的、文化的、政治的、経済的現象の相互関係。グループワークあり。		
成績	C-		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Quebec Writing in English		
履修期間	1 月～4 月	単位数	3
授業内容／形態	ケベック州の英語で書かれた文学の紹介。(Scott, Hood, Majzels, Richler, Ternar, Cohen, Rigelhof) グループでのプレゼンテーション。英語での授業。		
成績	B+		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Rédaction académique et professionnelle		
履修期間	1 月～4 月	単位数	2
授業内容／形態	構造化されたフレームワーク（論文、レポートなど）の中で、リサーチや結論を文章で表現するための、英語力を身につける。		
成績	A		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Les mondes celtes: langues et civilisations		
履修期間	1 月～4 月	単位数	3
授業内容／形態	ケルトのアイデンティティを主張する社会の紹介：歴史、言語、文学、現代状況、想像の世界。ケーススタディ。		
成績	F		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

留学生生活を通じて、私は多くの学びと気づきを得ることができました。

なかでも強く実感したのは、自ら主体的に行動することの重要性と人とのつながりが持つ力です。これらは、私の価値観や行動様式に大きな変化をもたらしました。

もともと私は、どちらかといえば受動的な性格でした。そのため、留学に際しては「積極的に行動すること」を一つの目標として掲げていました。現地で生活を始めた当初は、自分から誰かに話しかけるというだけでも大きな挑戦であり、日々緊張の連続でした。しかし、試行錯誤を重ねるうちに、少しずつ人との距離の縮め方を体得し、最終的には失敗を恐れずに行動できるようになりました。そうした姿勢が功を奏し、授業でノートを見せてもらえたり、一緒に勉強や食事をともにしたりする友人もできました。結果として、学業面・生活面ともに非常に充実した時間を過ごすことができました。そして、こうした関係性があったからこそ、私は留学を無事にやり遂げることができたと実感しています。現地で出会った友人のみならず、日本にいる家族や友人の存在も、心の支えとして極めて大きな意味を持っていました。

実際、留学期間中は孤独感に苛まれることも多く、とりわけ初めの数か月は、自分自身と向き合う厳しい時間が続きました。そのような中で、日本からの手紙や贈り物、電話での励ましが何度も私を奮い立たせてくれました。自分は決して一人ではないと気づかせてくれたこれらのつながりの力は、想像以上に大きなものでした。私はこの経験を通して、人との関係性が人間にとっていかに不可欠なものを、深い実感とともに理解することができました。

一方で、留学中には「もっと事前にしっかりと準備をしておくべきだった」と後悔する場面もありました。もちろん、それ自体は反省すべき点ではありますが、同時に「過去にとらわれ続けても意味はない」という考えに至ったこともまた、大きな収穫でした。過去を省みる姿勢と、それを糧として前に進む柔軟さの双方が重要であるという認識を得られたことは、私の思考における一つの転換点だったと考えています。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

この約 10 か月の留学生活は、私にとって間違いなく人生で最も濃密で、学びの多い時間でした。異なる文化や価値観の中で暮らす中で、自分の未熟さや無力さを痛感する場面も多くありましたが、それ以上に、人とのつながりや支えがどれほど力になるのかを実感しました。この経験を通して得たものを、今後の人生や社会との関わりの中で、どう活かしていくのか。今はその問いに向き合いながら、自分のあり方を考えるようになりました。

また、留学を通じて、自分が思っていた以上に日本について知らなかったことにも気づかされました。現地で出会った人々の中には日本に関心を持ち、憧れを抱いていることを知り、むしろ日本で育った自分のほうが日本のことを理解していないのではないかと感じました。遠くを目指す前に、まずは足元にある自分の文化や価値観を丁寧に知ること。それが、外の世界とつながる上でも大切な視点だと思うようになりました。

これからは、日本についての理解をより深めると同時に、留学中に感じたような充実感を日本での生活の中でも実感できるよう、自分から動き、日々の暮らしに能動的に向き合っていきたいと考えています。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

留学が決まってから、そして実際に現地に到着してからも、思い通りに進まないことは多くあると思います。私自身も、留学前の手続きで時間を取られたり、現地でのトラブルに直面した経験があります。例えば、履修を担当していた現地スタッフからの連絡が 2 週間以上途絶え、取りたい授業が取れなかったことや、「あなたはフランス語ができていないから、この授業は取るべきではない」と言われたこともありました。さらには、冷たいシャワーしか出なかったり停電したりといった小さなハプニングもありました。しかし振り返ってみると、こうした出来事も今では良い思い出であり、話のネタになっています。だからこそ、困難に直面したときこそ、これはラッキーな経験だ、と前向きに捉えることが大切だと思います。

また、問題を一人で抱え込まず、周囲の人に助けを求めることも非常に重要だと感じます。大変なことは大変、辛いことは辛いと素直に伝えれば、必ず手を差し伸べてくれる人が現れます。そうした心構えを持って、留学生活を送ってほしいと思います。